

1月・教皇さまの意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：自然災害の被災者
- ②宣教の意向：平和のための奉獻
- ③日本教会の意向：エキュメニズムの推進



発行所
カトリック長崎大司教区 広報委員会
下 窄 英 知
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3369 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所
株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148

26聖人殉教記念ミサ
2月5日(日) 14時
西坂公園
(雨天時・中町教会)

長崎大司教区のすべての司祭、男女修道者、信徒の皆さま、新年明けましておめでとうございます。昨年の皆さま方のお祈りとご協力とご支援に心から感謝いたします。本年も昨年同様何とぞよろしくお願いいたします。

さて、信徒発見150周年まで残すところ3年、それを機に開催する教区代表者会議(教区シノドス)まで2年となりました。ところで今年6月8日は、日本二十六聖人殉教者の列聖150周年記念日にあたります。また教皇さまは、第2バチカン公会議開催50周年を記念して、今年10月11日から来年11月24日までを「信仰の年」とすると宣言されました。そこで、今年も信仰生活を見つめ直す年にすることを提言したいと思います。

一、26人の殉教

二十六聖人は日本の殉教者の代表といえます。彼らの殉教の歴史を簡単に振り返ってみましょう。豊臣秀吉は、1596年10月土佐の桂浜に座礁したスペイン船の没収をきっかけとして、「伴天連追放令」(1587年)にもかかわらず宣教師が公然と伝道しているという口実で、同11月フランシスコ会宣教師とキリシタン全員の処刑を京都奉行石田三成に命じました。翌年1月1日、ペドロ・パウチスタほかフランシスコ会宣教師6名、日本人信徒14名、それにパウロ三木ほか2名の日本人イエズス会員の計24



2012年 年頭教書 信仰生活を見直そう 日本二十六聖人列聖150周年にあたって

大司教 ヨセフ高見三明

教師と長崎の信者たちが迎え、皆祈りながら刑場まで歩きました。26人は、4千人ともいわれる大群衆の目の前で一列に並んではりつけにされ、祈ったり歌ったりする中、交差する槍の一突きで殉教を遂げました。午前10時から11時ごろのことでした。彼らの遺骸は80日間十字架の上にさらされたといわれています。

二、二十六聖人殉教者の列聖150周年
26人の殉教者のうち、フランシスコ会関係の23名は1627年9月14日に、イエズス会関係の3名は

1629年に、それぞれ列福されました。そして福者フランシスコ・ザビエルが列聖されて240年目の1862年6月8日、二十六聖人殉教者が列聖されます。教皇庁は、やがて日本が開国し、宣教が再開されると見て、日本の教会を鼓舞しようとしたと考えられます。以来、二十六聖人は広く世界中に知られ渡りました。ちなみに、その5年後に205人の殉教者が列福されました。長崎に最後の迫害が始まった時でした。

二十六聖人列聖150周年を記念するために次のようなことを計画中です。①列聖150周年記念日の6月8日(金)あるいは近い日に「列聖感謝ミサ」をできれば司教協議会主催で、少なくとも教区主催で行う。②西坂の殉教地は2002年に島本 要大司教さまによって「教区巡礼所」と定められました。これを「国の巡礼所」とするために日本カトリック司教協議会によって承認していただく。③殉教者たちが歩いた京都から長崎までの道を「長崎巡礼の道」として確定し、司教協議会公認の巡礼地図を発

行する。日本国内だけでなく外国の人々にも紹介し、大いに巡礼していただきたいと思っています。

三、信仰生活を見直そう
さまざまな国籍、身分、年齢、職業などの26名は普遍的な教会の姿を彷彿(ほうふつ)とさせています。しかし、その彼らに共通していたのは、最後まで信仰を生き抜いたことでした。彼らは、権力者の命令で見せしめのために京都から長崎まで「犯罪人」として「連行」されましたが、寒空のもと沿道の人々からあざけりと侮辱を受けながら、喜びをたたえた敬虔(けいけん)な姿で絶えず祈り、歌い、説教しました。それは、殉教の瞬間まで続けられました。

新年明けましておめでとうございます。教区代表者会議(以下「教区シノドス」と表記)に向けて、さらに歩を進める年にしたいものです。▲その教区シノドスに向けての「ガイドライン」によると、2012年2月までは第1段階の「いただいたお恵みと現状の分かち合い」となっており、特に各分野にアンケートを配布して幅広い意見を取り入れることとなっている。▲今のところ、「信徒用」というアンケートが各世帯に配布され、そろそろ回収されてきている。ざっと見渡した限りでは、チェック欄に漏れなく印をつけている人が標準的な解答例で、意見・理由を記入する自由回答欄はほとんどが空白のまま返ってきている。▲もちろんある程度の期間を設定して協力依頼はしたが、「意見・理由も、積極的に記入してください。この部分こそが、大司教さまが知りたい部分です」などと気持ちよくくすぐるようなことは依頼するときに添えなかった。そのため、このままいくと、小教区全世帯回収されてきても、想定範囲内の意見集約に終わって、目を見張る意見は集まらないかもしれない。▲教区シノドスアンケートの集計は2月までなので、まだ間に合う小教区があれば、教区の活路を見いだすために、大司教さまのため、ぜひ意見・理由の部分はありのまま、思うところを正直に記入していただきたい。



東日本大震災 被災地支援 「大槌ベースキャンプ」開所 —長崎教会管区—

長崎教会管区(長崎・福岡・大分・鹿児島・那覇)が、東日本大震災の被災地支援を行うボランティアの活動拠点と決めた「大槌ベースキャンプ」(岩手県上閉伊郡大槌町)。元は4階建てのビジネスホテルで、津波の被害に遭った1、2階の改修を続けて

大槌ベースキャンプは最大40人のボランティアを迎えることができる。震災後、時間の経過とともにボランティアは減少傾向にあり、ベイス長の古木眞理一神父は、「被災

いたが無事に工事が終了し、昨年12月13日に開所式が行われた。式には平賀徹夫仙台教区司教、菊地 功カリタスジャパン責任司教、浜口末男大分教区司教をはじめ長崎教会管区の各教区代表者や地元関係者らの参加のもと、15時からミサと祝福式、続いてベースで働く人々のための支援茶話会があり、今後の活動に向け思いを新たにしたい。

2012年キリスト教一致祈禱週間(1月18日~25日)

・キリスト教一致祈禱祭
1月22日(日)14時 場所はプロテスタント教会で調整中。詳細は教区エキュメニズム・諸宗教委員会からお知らせします。

テーマ
「わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます」(1コリント15:51-58参照)

地は引き続きボランティアを必要としています。ご協力をお願いいたします」と呼びかけています。申し込みは、「大槌ベースキャンプ」TEL 0193・55・5885、FAX 0193・55・5886まで。写真は、開所式にあたって祝福する浜口司教。昨年12月13日、「大槌ベース」にて。

再び家庭を振り返る ③

長崎教区家庭特別委員会 川上 忠秋

家庭は、すべてのものの土台であり根本であり原点である。現代の家庭には、いろいろな問題が山積している。家庭の福音化、変化活性化が肝要である。

【1】対話

コミュニケーションを通じて、家庭の絆を深めていく。何でも話し合える家庭。夫婦の話し合える家庭。夫は妻の話を傾けるよい夫である。妻は夫の言葉に耳をすますよい妻である。親は、子供の話をそばにだてるよい親である。子供は、親の話し掛けをじっと聞くよい子供である。家族のあいさつが、交わされる。少年院に入ってきた少年に家族の絵を描かせると、1人で寂しそうに食事して

【2】愛に満ちた家庭

愛は家庭から始まる。家族の幸せ、喜び、救いを常に考える。相手中心の愛、他者のための愛、これをアガペーの愛と言う。ドアを開ければそこに愛がある。幸せの光がさしている。感謝し合う心があふれている。

【3】共に教会に行き、一緒に祈る家庭

最近、家庭から祈りの声が消えた。人間にとって最も美しいのは、祈っている姿だといわれる。勉強の時間、テレビの時間、祈りの時間を決めて習慣づける。親も子供と一緒に学び、読み、合掌する。そこに喜びがこぼれ、笑いが絶えない。

主イエスにとって祈りは、父なる神との対話であり、安らぎの時であり、至福の瞬間であった。

旧出津救助院、今秋オープン 地域と共に再生の取り組み



現在、保存修理・整備工事中の旧出津救助院(長崎市西出津町、国指定重要文化財)。工事は5月の予定で、2012年秋、新たにオープンする。

旧出津救助院は、フランス人宣教師マルコ・マリール・ド・ロ神父(パリ外国宣教会)が信仰教育の基盤となる母親と修道者になる女性の教育のために私財を投じて設立。1883年から85年にかけて建設され、同時に、貧窮する地域のために、仕事や生活の術を教えることを通して神さまのことを伝えた。旧出津救助院とド・ロ神父遺跡を活用する

部会「ド・ロさまの家」(修道会や地域の人々による会)では、再生の取り組みの1つとして、神父が開墾した畑で茶や蕎麦、芋などの栽培を一昨年から行っている。同事務局の辻原祐子修道女(お告げのマリア修道会)は、「地域の方々の、ド・ロさまへの感謝の心は今も続いています。救助院や畑での体験を通して、訪れる方々に、神さまに触れていただくと、神さまになれたらと願っています。ぜひ「来て、見て、体験して」ほしい」と話す。写真は昨年11月16日、青空の下、収穫した蕎麦を唐箕にかける地域の人々。

教区シノドス

2014年、教区代表者会議に向けて

禁教と潜伏の250年

全国規模の禁教令布告が1614年、信徒発見が1865年だったとすれば、潜伏期間は251年に及ぶものではなかつたか。その期間、5人組、宗門改め、種々の統制や監視網が敷かれた中で、潜伏キリシタンたちは、神と共に、いっしょに生き、子どもたちに信仰を伝えていく。見事と言うほかはない。今回は、どうしてそれが可能だったかを振り返る。(教区本部署 務局 山川 忠)

■コンフラリア(組・兄弟会・実践型信心会)

宣教師たちが、全員追放の身となっても、信徒自らが知恵や力を尽くし、信仰を守り、信仰に生きることができるようになる。コンフラリア、つまり、組や兄弟会を制度化するように、宣教師たちは指導したのである。コンフラリアは日本で始まったものではない。西欧で実施されていたものである。信徒たちに、ゆるしの秘跡やミサ祭の挙行はゆるされない。それでも、信徒

私たちは組をつくり、入会の諸条件を定め、役割やそれぞれの責務を割り振って祈りの集いを存続させ、相互に愛を生き合つた。潜伏はしていたものの、キリシタンたちの奥深くに疑問を投げ掛けている。念仏によって、阿弥陀如来に帰依(きえ)すれば、すべての罪が赦されるとする教えに疑問を呈したのである。「罪は簡単に赦されてはならない。罪は罪であり、わが身をもつて償うべきものである」と教え、遷善(せんぜん)の決心を信徒たちに促したのである。

教皇庁は、トレント公会議(1545年〜63年)を終え、1566年に規範となるローマのカテ

キスモを出している。これから推し量ると、イエズス会を通して日本にもたらされた要理は、規範版を反映した、優れたものだったといえるのではないか。この要理に全身を投げ入れ、教えに沿いながら、潜伏していたのである。 巡察師・ヴァリニヤノ(1528〜1609)は、鎌倉仏教の中にみられる念仏や題目による救いに疑問を投げ掛けている。念仏によって、阿弥陀如来に帰依(きえ)すれば、すべての罪が赦されるとする教えに疑問を呈したのである。「罪は簡単に赦されてはならない。罪は罪であり、わが身をもつて償うべきものである」と教え、遷善(せんぜん)の決心を信徒たちに促したのである。

器としての原爆と、平和利用という意図を持つ原爆。関心があつてシンポジウムに参加したが、自分の中で払しょくできない部分がある。しかし、問い続けることをやめるわけにはいかない、そして助け合うことを忘れてはいけないと思つた」と感想を話した。



教区福音化推進部人権委員会主催 シンポジウム「被曝」 新たな被害をもたらすもの

教区福音化推進部人権委員会は、昨年11月27日、シンポジウム「被曝」新たな被害をもたらすもの」を、被爆地長崎から福島原発を考慮して

をカトリックセンターで開催した。シンポジウムは、昨年7月に福島県立医科大学に就任した長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授の山下俊一氏(城山教会所属、福島の自然と生活の再生を目指すボランティア団体「ふくしま再生の会」で活動する元毎日新聞記者の佐々木宏人氏(東京・荻窪教会所属)、日本カトリック部落差別人権委員会委員の太田勝師(福音の小さい兄弟会会員)の3人。シンポジウムは、東日本大震災によって引き起こされた福島



故に関連し、シンポジウムがそれぞれの立場から「復興や再生に向けてどのように協力できるか」福島の被曝の問題に関心をもつてほしい」と提言をし、質疑応答も含め約3時間にわたって行われた。 参加者の1人は、「兵

第1原発の事

参加者の1人は、「兵

参加者の1人は、「兵

長崎黙想の家からお知らせ

テーマ みことばから自分の生き方を見つけよう。友だちといっしょに。 日時 2012年2月18日(土) 11:00 集合・受付~2月19日(日) プログラム [2/18] 11:00 集合・受付 -- ミサ -- 昼食 -- お話 ① -- お話② -- 夕食 -- 教会の祈り・面会 -- [2/19] 朝の祈り -- 朝食 -- お話③ -- ミサ -- 昼食(会話) -- 昼食後、ミニ巡礼出発 -- 大山教会 -- 15:30 下山 -- 16:00 JR長崎駅前解散(予定) (ミニ巡礼は、カトリック信徒が90%の町・大山教会へ) 指導者 ディアス・マヌエル師(イエズス会士) 対象者 どなたでも 場所 イエズス会立山修道院(長崎黙想の家) 参加費 1泊2日7,000円(4食+巡礼交通費含む) ※前泊または日曜延泊の方は費用追加。 申し込み・連絡先 イエズス会立山修道院(長崎黙想の家) TEL 095-821-4577 FAX 095-821-4585 メール ret-nagasaki@mxm.cncm.ne.jp

寄付 長崎カトリック教会の皆様(援助物資と)芳志 長崎カトリック神学院 匿名様(マルコ園) 深堀正夫様(東京) 平戸地区教会の皆様(援助物資と)芳志(右の方々から寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます) 長崎カトリック神学院 野村 等様(浦上) 故マダレナ 野村ナヨ様 匿名様(潜竜) 故マリアマダレナ 堤 トセ様 田中千鶴子様(浦上) 故ヨハネ田中松男様(右の方々から神学生養成などのために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます) 祈り申し上げます。

香典返し お礼とご報告 長崎カトリック教会 故ミカエル岡野一雄様

初誓願宣立者 アンドレア 安 成美 (韓国・ソウル) マリス ステラ 尾島 舞(高松 桜町)

第129回クルシリヨ イエズス会立山修道院 第129回クルシリヨが11月20日〜23日、イエズス会立山修道院・黙想の家で中村倫明師の指導

のものと、16小教区18教会から23人(男性11、女性12)と修道女、神学生各1人の計25人が参加して開催された。参加者は、外国人1人も含め27歳〜83歳まで幅広い年齢層で、最初は消極的な態度だったが、聖体訪問直後から次第に変わっていった。最後は皆、喜びに満ち溢れて、これからは恩恵の生活を絶やさないために、信心・研究・活動を

Table with columns for names, birth dates, and parishes. Includes names like 大司教 高見 三朗, 長崎カトリック教会, 野村 等, etc.

謹賀新年

2012年1月1日

Table with columns for names, birth dates, and parishes. Includes names like アギラール・J・ホセ, ディアス・マヌエル, etc.

2011平戸ザビエル祭



ザビエルがいつも手放さなかつた十字架を「宣教師の魂」と説き、その心を「人をゆるす愛、人のために命を与える愛、人を生かすために自分を犠牲にする愛」と説いた。奉納では、ザビエルの愛と奉仕の精神を受け継ぐことができるようにとの願いを込めて、平戸地区の青年たちが生月の殉教地から運んできた赤い櫛が奉納され、祭壇のザビエル像に掛けられた。

11月27日、広島教区の前田万葉司教と平戸地区司祭団の共同司式により、ザビエル記念祭が行われ、広島教区の巡礼団をはじめ平戸地区内外から400人余が平戸ザビエル記念教会に集まった。「思い起こそうザビエルの熱き思いを」をテーマにささげられたミサの説教の中で、前田司教は、

ミサの終わりに、1981年に来日した教皇ヨハネ・パウロ2世の、長崎カトリックセンターでの離日メッセージの音声テープで流された。前教皇は、ザビエルが教えたキリスト教的愛と奉仕

の精神をいつまでも保つようと説かれ、参加者は聴き入っていた。ミサに続いて前田司教の司教叙階を祝う式もあり、平戸地区代表者らの祝辞、花束と記念品を贈呈し、喜びを共にした。

教区連合婦人会 神学生養成のため 800万円献金

教区連合婦人会(深堀美佐子会長)の代表者7人は昨年11月27日、



結城了悟神父、追悼コンサート

指導司祭大山繁師と共に長崎大司教館を訪れ、神学生の援助献金にと803万7924円を高見三明大司教に贈った。その後、連合婦人会の活動や現状について話題が及び、大司教と1時間ほど意見を交わした。

福者ベトロ岐部司祭と187殉教者の列福に尽力し、列福式(2008年)の1週間前に亡くなったイエズス会司祭、結城了悟神父。その神父を追悼するコンサートが昨年11月15日、長崎市西坂町の聖フィリッポ教会で行われた。結城了悟神父追悼コンサート実行委員会・日本二十六聖人記念館26の会・NPO法人サンミック出島が主催、長崎日本フィルの会協力。

「結城神父さまは殉教者の話をすると、まるで殉教者と会ったかのように話されていた」と振り返り、参加者は共に神父を偲び、祈りをささげた。引き続き「日本フィル弦

し日の結城神父のDVD映像を観て思い出と共に、片岡千鶴子長崎純心大学長の音頭により献杯が行われ、和やかな雰囲気の中、閉会した。

自死された方々のためにささげる追悼ミサ

自死問題に取り組み「聖イグナチオいのちを守るプロジェクト」(東京は、「2009年のちを守る緊急アピール」(日本カトリック社会司教委員会ほか)を受けて、「自死と向き合う教会」として活動を始め、その一環として「自死された方々のために捧げる追悼ミサ」を一昨年から始めて

いる。昨年は死者の月である11月26日に、東京の麹町教会(聖イグナチオ教会)でミサが行われた。これに合わせ、長崎でもこのような追悼ミサが

できればいいのではとCLC(クリスチャン・ライフ・コミュニティ、聖イグナチオ・ロヨラの霊性を生かす信徒の団体)が主催し、11月25日長崎市西坂町の聖フィリッポ教会で約20人が参加し、自死された方々のためにミサをささげた。

第20回 子ども聖歌の集い

2011年12月11日、第20回子ども聖歌の集いが浦上教会で行われ、参加した11教会の子どもたちが日頃の練習の成果を披露した。今回は中町、滑石、稲佐の3教会が表彰され、また特別賞として「大司教賞」が長与教会に授与された。応援団も含め楽しい時間を共に過ごした。



主のご降誕おめでとうございませう

2011年12月6日から11日までの6日間、「探訪～四季を味わう上五島実行委員会」の主催で、チャーチウィークコンサートが開催された。6つの教会がコンサートに協力し、12月7日は浜申教会を会場に一早いクリスマスの雰囲気を地域の人々と共に味わった。浜申教会では、参加者への感謝を込めて、教会の子どもたちが練習した歌を披露した。その後、若手演奏家たちが、はつらつとした演奏で聴衆を魅了した。参加者の中には、「どの会場にも足を運んでいます。それぞれ工夫を凝らした演奏プログラムとなっていて、楽しんでいます。浜申での演奏も素晴らしかった」と感想を述べた。



チャーチウィーク in 上五島 教会でコンサート

楽四重奏楽団」の演奏が行われ、教会の中での美しい演奏は参加者全員を魅了した。その後、記念館ホールでの交流会に移り、在り



楽四重奏楽団」の演奏が行われ、教会の中での美しい演奏は参加者全員を魅了した。その後、記念館ホールでの交流会に移り、在り

ミサがあり、説教の中で「結城神父さまは殉教者の話をすると、まるで殉教者と会ったかのように話されていた」と振り返り、参加者は共に神父を偲び、祈りをささげた。引き続き「日本フィル弦

ミサを司式したデ・ルカ・レンゾ神父は、「私たちが今日ここに集まったのは、自死された方を裁くためではなく、自死された方の救いを願って集まったのです」と語り、皆で心一つにして祈った。参加者は、「どういう死に方をしたって無駄ではない。神さまはすべてを受け止めてくださるから、同じ痛みを持つもの同士励まし合っていたらと思います」と話した。

巡回教会めぐり

仲知小教区

3カ月に一度、ミサがささげられる



西木場小教区

石炭産業による人口急増で建立



戦後、基幹産業であった石炭産業の盛況で人口が急増し、信者の従業者とその家族も増えたため、1958年(昭和33)、西木場小教区の巡回教会として、洗礼者ヨハネにささげて建てられた。

当時の主任司祭は神言修道会カムストラ神父で、母国オランダから多くの援助を頂いたという。当初は小高い丘の上に質素な教会だけが建っていたようだが、時を経るにつれ周りに民家が建ち並んだ。60年(昭和35)の松浦市の人口は4万

大正末期から昭和初期にかけて福岡、下関、小崎地区に外海、五島、黒島などから10戸余りが移住したとされ、当初田平教会に約7kmの道程を歩いてミサにあずかっていたと聞く。

現在、戸数50世帯、例に漏れず少子高齢化は避けられない状態ですが、受け継いできた信仰というともしびを消すことなく皆で守り続けていきたいと思えます。(福岡教会・桃田隆)

福崎教会 祝別された

4千人余。毎週ミサにあずかる人も多かったようだが、炭鉱閉山と人の流出、そして末端の地域の例に漏れず過疎。現在は平成の市町合併後でも2万5千人余である。御厨教会総勢65戸。教会建立以前はもっと少ない。

松永司教によって祝別された。愛苦会(お告げのマリア修道会の前身)の保育園が現在教会のある場所に開設、63年(昭和38)併設する聖堂の祝別が行われ、日曜のミサ、子どもの稽古が行われるようになった。1956年(昭和31)西木場教会が小教区となり、組み入れられ、現教会は85年(昭和60)10月8日松永久次郎司教様によって祝別された。

2011年度 日本カトリック難民移住移動者委員会 長崎教会管区セミナー

今回のセミナーは日本に滞在する外国人の方々にとって大変重要なセミナーです。今年7月に入国管理法が改定され、新しく外国人住民票制度が制定されます。住民サービスをより受けやすいと謳われている半面、手続きが遅れてしまうと在留許可取り消しなど、かなり厳しい罰則が科せられています。できるだけ隣人の外国人の方々に声をかけていただいて、このセミナーに参加していただきたいと思えます。

問い合わせ

難民移住移動者委員長崎教区代表 川口昭人

日時 2012年2月11日(土) 9:00受付、10:00開会、15:30閉会
場所 熊本・マリスト学園 (熊本市健軍 2-11-54)
テーマ To Live in Harmony with Faith and Social Responsibility 「信仰と社会的責任をもって、調和の中に生きる」

基調講演

佐藤信行氏 (在日韓国人問題研究所所長、外登法問題に 取り組む全国キリスト教連絡協議会事務局員) テーマ…「改定入管法問題」 —2012年から実施される改定入管法を検証する—

パネルディスカッション

佐藤信行氏 中島眞一郎氏 (行政書士、外国人と共に生きる会—KUMUSTAKA)

※長崎からの参加者は当日朝7:00に中町教会に集合・出発、貸し切りバスで会場へ向かう予定です。

お問い合わせ・参加申し込み

(担当司祭) 川口昭人神父 神ノ島教会 TEL 095-865-1028

「歩くながさき巡礼」参加者を募集します

【第1回】奈留島・久賀島コース 2012年2月25日(土)~26日(日) 1泊2日
集合 2月25日(土) 9:20 福江港ターミナル1階
解散 2月26日(日) 13:00 福江港ターミナル1階
1日目 五島椿まつりの企画として実施される「奈留島海鮮グルメウォーク」に参加。

【第2回】黒島コース 2012年3月4日(日) 日帰り
集合 7:30 浦上駅 解散 18:00 浦上駅
佐世保港沖、黒島天主堂を訪れます。(興善寺~長崎鼻断崖絶壁見学~昼食・民宿~カトリック共同墓地・マルマン神父の墓~黒島教会~信仰復活の地)ウォーキング 約10km。

【第3回】大村コース 2012年3月20日(火・春分の日) 日帰り
集合 8:30 浦上駅 解散 17:00 浦上駅
大村純忠の一生、郡くずれなど、長崎のカトリックの原点を訪れます。(玖島城址~武家屋敷~三城城址~大村純忠史跡公園~植松教会~胴塚~首塚~放虎原殉教地~獄門所跡~妻子別れの石~本経寺)ウォーキング 約12km。

主催・申し込み先
NPO法人長崎巡礼センター 〒852-8114 長崎市橋口町8-8
TEL 095-842-2393 FAX 095-865-8191
電話またはファックスにてお申し込みください。

申し込み締切 2012年2月15日 ※参加者多数の場合は事前に締め切ります。
参加資格 健康な方で、自己管理ができる方はどなたも参加できます。

親睦 ミニバレーボール大会 長崎南地区連合婦人会



長崎南地区連合婦人会主催の第1回親睦ミニバレーボール大会が11月27日、聖母の騎士体育館(長崎市本河内)で開かれた。10チームがA・Bバ

トに分かれてリンクリグ戦を行い、練習を重ねたチーム、ぶっつけ本番のチームとさまざまであったが、試合が進むにつれ全力で臨み熱戦を繰り深めた。

英語でチャレンジ 国際人へゴロー 精道の英語教育の実り

「創立当初から国際教育に力を入れている」長崎精道小・中学校(長崎市三原)。昨年10月、読売新聞社主催の「高円宮杯第63回全日本中学校英語弁論大会長崎県大会」に



高円宮杯で活躍した4人

生3人も、英語で司会進行役を務めた。11月には長崎新聞社と南日本カルチャー主催の「中学生英語暗唱大会」が行われ、中学2年生の星野光美さんが最優秀賞(1位)、東晴日さんが努力賞(4位相当)を受

新刊良書 石が叫ぶ福音 喪失と汚染の大地から

林尚志著
震災と原発事故が開いた、この時代と現実の裂け目。心の内部破裂。かつて再び立ち上がる力を求めて、前世紀後半の生活を

高円宮杯で活躍した4人
生3人も、英語で司会進行役を務めた。11月には長崎新聞社と南日本カルチャー主催の「中学生英語暗唱大会」が行われ、中学2年生の星野光美さんが最優秀賞(1位)、東晴日さんが努力賞(4位相当)を受

カトリックセンターで開催 映画上映会と小教区広報担当者の集い



この日に合わせ教区広報委員会

11月23日、SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会)が選定した第35回日本カトリック映画賞受賞作品「月あかりの下で」がある定時制高校の記憶」がカトリックセンターホールで上映され、約150人が感動を分かち合った。

の現場から、共に生きた命の輝きを収拾する。21世紀の、ただ一つの希望として。民衆が黙っても、石が叫ぶ(ルカ福音書)。著者はイエズス会士で、歪みを負って生きようとする人々と共にあって、そこから希望を「学ぶ」という一貫した姿勢を持つ。岩波書店、2625円。



ワールドユースデー(WYD) 青年たちが報告会開催

12月3日19時半から俵町教会で行われた中高生・青年のためのワールドユースデー(WYD)マドリッド大会の報告会が開催された。スペインのピーゴからサントイアゴまで、約100キロの道のりを徒歩

「だから、こう祈りなさい。天におられるわたしたちの父よ、わたしたちに必要な糧を今日与えてください。わたしたちの負い目を赦してください。わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。わたしを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにしない。」(マタイ6章9節、11~15節)。



みことばにふれて 81 岩崎康彦神父 (今村教会)

新年を迎えました。新年なのですから、昨年までのことはもう終わりにしなければなりません。神さまご自身が終わりに

「だめない」(ヨハネ8:11)とおっしゃってくださっているようにも思えます。だから、今日からはま

心にひっかかりを覚えません。「わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように」というこのくだり。

本日は赦してもいけないのに、「赦しましたように」などと、どうして祈れましょう。この赦しは無条件の赦し、過去の一切を問わない、心をわだかまりを持ちながら祈るとすれば、「もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたが

そう信頼し、そう願って、今日もミサの中、共に「主の祈り」を唱えさせていただきます。

A Happy New Year! 材石 治明
長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役 ミカエル 溝口美義
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

飽の浦教会 墓地分譲
場所：長崎市大谷町 262-1 ガーデンテラス長崎ホテル隣接
眼下に長崎の港と街並みを見渡す明るい丘
総額 160万円 墓碑、納骨室(総御影石)、彫刻費など含みます。
●永代使用权付き墓地 ●占有面積は 間口 1.6m 奥行 1.5m
●墓地内祭壇(約 40㎡) で年2回合同追悼ミサをささげます。
即納骨可 お問い合わせ先：カトリック飽の浦教会墓地管理委員会
島田義美 TEL 095-861-0982 携帯 090-5948-8838
(有)長崎大理石工業 社長 三ハネ 濱本直行
TEL 095-839-0374
本社 長崎市つつじが丘 5-1-15 加工工場 諫早中核工業団地